

## 正常な歯並びとは

奥歯でカチンと咬んだ状態で

- ・上下の前歯の中心が合っている。（僅かなズレは許容範囲）
- ・上下の前歯が、上下方向、前後方向に2～3mm重なっている。
- ・上下の歯が交互にかみ合っている。

上記の交互以外は全て不正な咬み合わせを有しているという事です。  
ただし、許容範囲内であれば問題ないと考えております。



## 不正咬合の種類

①過蓋咬合



②叢生



③交叉咬合



④上顎前突



⑤反対咬合



⑥開咬



乳歯列から生え替わりをむかえ、永久歯に生え替わった時に、許容範囲内の歯並びに誘導する事が重要だと思います。当院は、乳歯列の時からお口の状態を診断し、不正になりそうな要因をご説明いたします。その要因を排除する事によってなるべくひどい歯並びにならないようにしていきます。診断時に不正要因が多かった場合、まず自然治癒はしません。様子を見る必要は無意味です。本人の協力が必要不可欠な為、未就学児の時期には積極治療（お口の中に装置を入れたりする治療）はいたしていません。食育や悪い癖の除去、筋機能療法（ガムトレーニングetc）で経過を観察しております。

## 理想的な乳歯列（5歳時での咬み合わせ）

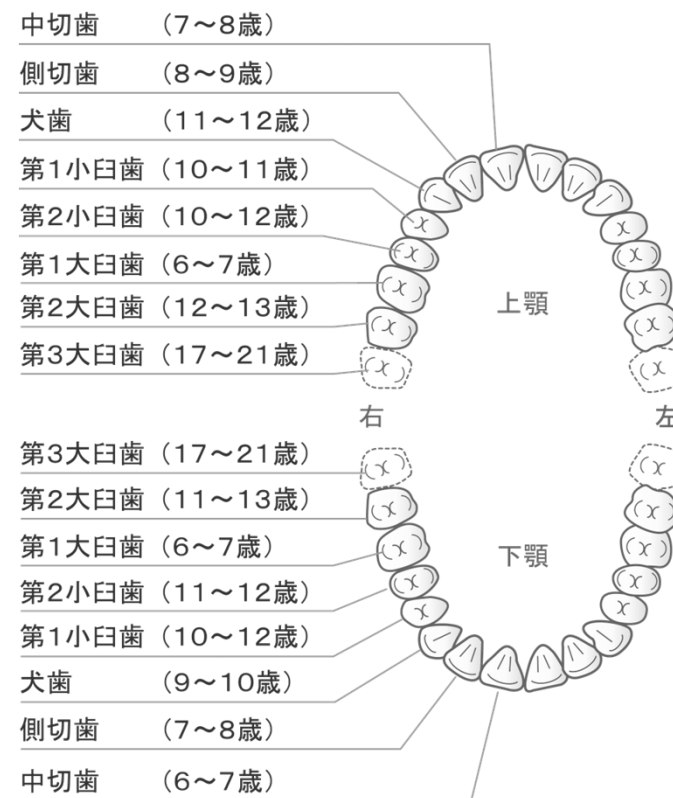
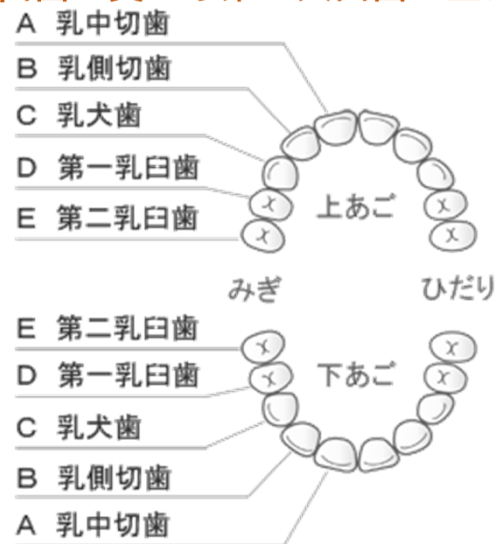
奥歯でカチンと咬んだ状態で

- ・上下の前歯の中心がだいたい合っている。
- ・上下の歯がしっかり見える。
- ・上下の歯が交互にかみ合っている。
- ・適度にすきっ歯な状態になっている。（重要）

上記の咬合以外は全て不正咬合を誘発する可能性が高くなります。

永久歯への生え替わりは下顎前歯から、

または下顎第二乳臼歯の奥から第一大臼歯が生えてきます。



正常な歯並びへの誘導とは → 口腔内の容積（垂直方向、水平方向）の増加

水平方向、垂直方向ともに成長により拡大できれば、きれいな歯並びになります。  
水平方向のみの治療は、最終的に治療が完了しません。

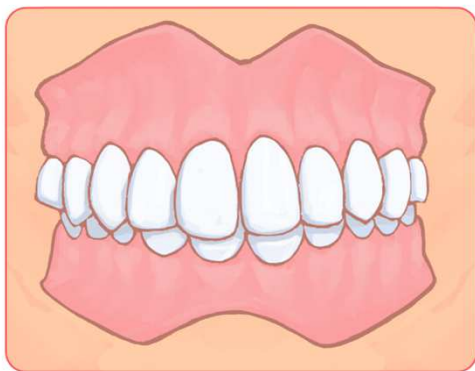
混合歯列期から永久歯列へ綺麗に誘導された症例（治療無し）



このような患者さんは全体の5%位（当院に来院される患者さん）です。  
つまり、ほとんどの方は不正要因があります。

## 不正咬合の種類 (比率は厚生労働省のデータ)

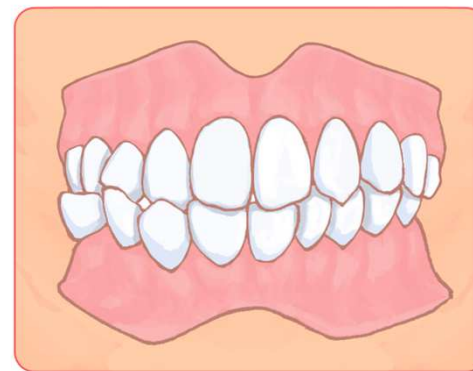
①過蓋咬合 8%



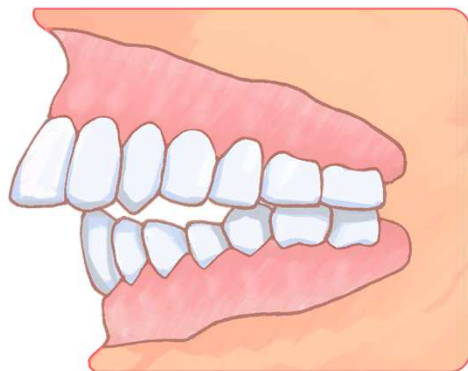
②叢生 40%



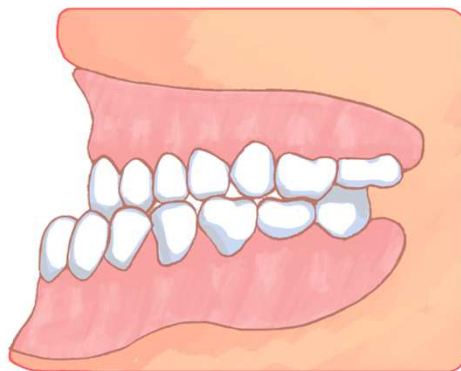
③交叉咬合



④上顎前突 13%



⑤反対咬合 2%



⑥開咬 3%

